



和と力

10月号



売布小ホームページ

令和7年(2025年) 10月 1日

宝塚市立売布小学校

つながり ～地域のまつりと防災～

校長 藤山 昌生

猛烈に暑い季節がいつまで続くのか、本当に秋はやって来るのかと心配していましたが、空を見上げると秋の雲へと様変わりし、秋風が心地よく感じられる季節となりました。10月に入り、給食中のお昼の放送で流れる曲が、童謡『赤とんぼ』(三木露風 作詞/山田耕筰 作曲)になりました。作詞者の三木露風さんは、兵庫県龍野市(現・たつの市)のご出身です(私も同じです)。たつの市では夕方になると市内全域でこの曲が流れ、市民にとっても親しまれている曲ですが、子どものころは「もう帰る時間だな」と感じたものです。



さて、先月23日には、売布小学校区まちづくり協議会による「歩いて行ける小さな花火大会と秋まつり」が開催されました。本当に多くの方々のご尽力により、来場者の皆様に楽しんでいただけるまつりとなりました。また、これから市内各地でだんじりが行われるなど、秋まつりの時期となります。まつりは単なる季節の行事ではなく、準備から本番までの間に多くの人々が協力し合うことで、地域の絆が自然に深まります。それは、地域やPTAの役員だから何かをするということではなく、子どもからお年寄りまで世代を超えた交流や、そこにある文化・伝統の継承によって、自分たちのまつりを創るという意識の高まりが、地元地域への愛着を育むことにつながると思います。「まつりこそ、まちづくりの原点」とおっしゃった地域の方もいらっしゃいましたが、非日常であるまつりを共有体験することで、子どもたちにもつながるきっかけ、そして「つながる」ことの大切さを実感してほしいと思います。

さらに、このつながりは地域防災にも生かされることは間違いありません。災害等に備える言葉として、「自助」「共助」「公助」があります。今年で30年の節目を迎えた阪神・淡路大震災の際には、生き埋めになった方の約8割が「自助」および隣近所の人たちによる「共助」で救出されたと言われています。今年度も地域の防災訓練が計画されています。自ら備えることはもちろん重要ですが、地域行事や防災訓練に参加するなど、普段からのつながりを大切にしていきたいですね。これからも、学校は地域の核として協力してまいります。

《平和への願いを込めて》

6年生は、9月29日から30日にかけて広島へ修学旅行に行ってきました。平和記念公園内の原爆の子の像の前で平和集会を行い、おりづる集会で全校のみなさんに折ってもらった千羽鶴を捧げてきました。また、資料館の見学やフィールドワークを通して、被爆から80年目を迎えたヒロシマで、ここでは学べないことを多く学ぶことができたと思います。宮島では国宝厳島神社のライトアップや水族館、買い物など、友だちと充実した時間を過ごし、思い出深い修学旅行となりました。

